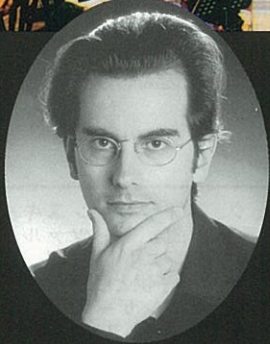


文化フォーラム春日井開館記念

いまヨーロッパで最も注目される新進気鋭の指揮者を迎えて

'99 春日井市民第九演奏会



指揮
ダニエル・ホーイェム・カヴァッツア

とき **1999. 12. 5** SUN 午後3時開演 (午後2時開場)

ところ **春日井市民会館**

入場料 **1,000円** (全自由席)



ソプラノ
小林 史子

指揮 ダニエル・ホーイェム・カヴァッツア
ソプラノ 小林 史子 アルト 小川 明子
テノール 小山陽二郎 バス 稲垣 俊也

管弦楽 春日井市交響楽団

合唱 春日井第九合唱団 合唱指揮 吉川 朗

曲目 ベートーヴェン作曲
交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱付」

アルト
小川 明子



テノール
小山陽二郎

■ チケット取扱い場所(発売日10/5④より)

春日井市役所 2F 情報コーナー・春日井市民会館・春日井市東部市民センター・春日井市内各公民館(中央、知多、鷹来、坂下)・春日井市内各ふれあいセンター(味美、高蔵寺、南部、西部)



バス
稲垣 俊也

主催 / 春日井市・春日井市教育委員会・

'99春日井市民第九演奏会実行委員会

共催 / 春日井市交響楽団・春日井第九合唱団

後援 / 中部大学・中日新聞本社

お問い合わせ先

'99春日井市民第九演奏会実行委員会

☎0568-51-1111

春日井市企画調整部文化課

☎0568-85-6078

管 弦 楽 春日井市交響楽団

平成2年11月、春日井市初のアマチュアオーケストラとして誕生。翌年創立記念演奏会を開催。以後毎年、春日井市民会館の満席の聴衆の前で定期演奏会を開き、今年7月の第8回演奏でも、チャイコフスキーの交響曲第6番「悲愴」などを演奏して成功を納める。名誉会長の鞆飼一郎春日井市長、会長の山田和夫中部大学総長、団長の花村浩克を中心とした約60名の団員が、春日井市の音楽文化の原動力となるべく日々研鑽を

積んでいる。昨年6月の「桑名菖蒲コンサート」(桑名市)・同9月の「第1回愛環音楽祭」(瀬戸市)など、他都市にまで活動の場を広げて「音楽大使としての市民オケ」の役割を果たしている。また先の春日井建設協会主催の「菊華コンサート」では、フルーティストの山形由美と共演して好評を博す。今回の「春日井市民第九演奏会」でも新進気鋭の指揮者ダニエル・H・カヴァッツァ氏との共演に情熱を燃やしている。

合 唱 春日井第九合唱団

平成5年12月の春日井市制50周年記念「第九演奏会」に出演した春日井市民を中心に結成された合唱団。それ以降、毎年12月に開かれる春日井市民第九演奏会に、200名の大合唱団として出演。創立以来、ベテランの指導者吉川朗先生の熱心な指導に加えて、団長の荒川昭代とそれを支えるスタッフの優れたリ-

ダーシップが、経験豊かな団員を勇気づけ、心のこもった質の高い演奏を生みつけている。昨年9月の「第1回愛環音楽祭」(瀬戸)を受けて、来年3月の「第2回愛環音楽祭」(春日井)にも出演予定。吉川朗氏の指導の元、積極的な合唱活動によって春日井の音楽文化の中心となるべく努力をつづけている。

指揮者 ダニエル・ホーイェム・カヴァッツァ

Daniel Hoyem-Cavazza

ドイツ キールで生まれる。ウィーン国立音楽大学で、指揮法をカール・エスタライヒャー、コレペティツィオンをハラルド・ゲルトス各教授に師事。1993年に優秀な成績で卒業。卒業後すぐ、オーストリア クラーゲンフルト市立歌劇場に指揮者兼コレペティトアとして契約する。1997年には、ウィーンフォルクスオーバーにて、ベッリーニのオペラ「ノルマ」の新演出をしたとき、音楽監督アッシャー・フィッシュ氏のアシスタントを務める。フォルクスオーバーでの指揮デビュー

は、モーツァルトのオペラ「魔笛」。1999年から、クラーゲンフルト市立歌劇場の常任第2指揮者となる。カヴァッツァがオペラやコンサートで共演したオーケストラは、ケルトナー・シンフォニーオーケストラ、アンサンブル・クレアティフ、ニュルンベルク・フィルハーモニカ、J.S.パッサ室内オーケストラ、ウィーン・フォルクスオーバーオーケストラなど。また、エアフルト(ドイツ)、ドレスデン、ストックホルム、オデッサ、コペンハーゲン等の音楽祭に客演している。初来日。

ソプラノ 小林 史子 こばやし・ふみこ

松坂女子高等学校音楽科卒業。愛知県立芸術大学音楽学部声楽科卒業(桑原賞受賞)。同大学院修了。ロータリー財団奨学生としてイタリアに留学。ヴェルディ音楽院卒業。ソロリサイタル(1983年・1986年・1991年・1993年・1995年・1996年)オペラ「リゴレット」(ジルダ)、「ラ・ボエーム」(ミミ)、「ヘンゼルとグレーテル」(眠りの精・ゲルトルト(母親))、「斎王」(多比良古)、「フィガロの結婚」(伯爵夫人ロジーナ・スザンナ)、「修道女アンジェリカ」(アンジェリカ)に出演。宗教曲ヘンデル「メサイア」、ヴェルディ「レクイエム」、モ-

ツァルト「レクイエム」、戴冠ミサ、サリエリ「レクイエム」、フォーレ「レクイエム」、ラター「レクイエム」、ベルゴレージ「スターバト・マーテル」、プーランク「グロリア」、ベートーヴェン「第九」等にソリストとして出演。フランス音楽コンクール第1位。F.P.Neglia国際音楽コンクール第3位。ヴィオッティ国際音楽コンクール入選。後藤むつみ、稲葉祐三、神田幸子、中村浩子、R.Ricci、A.M.Castiglioni、沖野真理子、神田詩朗の各氏に師事。現在、三重高等学校音楽科、愛知教育大学非常勤講師。

アルト 小川 明子 おがわ・あきこ

東京芸術大学卒業、同大学院修了。文化庁オペラ研修所第10期修了。1997年度文化庁芸術家在外派遣研修員としてウィーンに留学。1992年第61回日本音楽コンクール声楽(歌曲)部門第2位。第4回日本声楽コンクール第3位。1993年第4回日本歌曲コンクール第1位ならびに山田耕作賞受賞。第10回ニッカ・カルメンシータ新人オーディション第2位。芸大在学中に第38回及び41回メサイア特別演奏会、芸大定期バハ「マタイ受難曲」に出演。バハ「マタイ受難曲」[ヨハネ受難曲]「クリスマス・オラトリオ」[マニフィカト]、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「レクイエム」、ハイドン、シュ-

ベルト、ブルックナー、ヤナーチェク、ストラヴィンスキー等の宗教曲、ベートーヴェン第9番交響曲、モーツァルト「コシ・ファン・トゥッテ」[ドン・ジョヴァンニ]「魔笛」、原嘉壽子「祝い歌が流れる夜に」、ラヴェル「子供と魔法」、ヴェルディ「ファルスタッフ」、ニコライ「ウィンザーの陽気な女房たち」、シェンベルク「モーゼとアロン」、フンパーディンク「ヘンゼルとグレーテル」、ヒンデミット「ロング・クリスマス・ディナー」、水野修孝「天守物語」等のオペラに出演。高橋啓三、渡邊高之助、戸田敏子、毛利準、アデレ・ハースの各師に師事。二期会会員。

テノール 小山 陽二郎 おやま・ようじろう

愛知県立芸術大学卒業、同大学院修了。1994年よりイタリアへ渡る。95年より愛知県新進芸術家海外助成を受ける。カシナ国際声楽コンクール第2位等数多く入賞。日生劇場「愛の妙薬」[セビリアの理髪師]「魔笛」他のオペラに出演。神田詩朗、岡山広幸、L.アルヴァ、V.テッラーノヴァの各氏に師事。藤原歌劇団

準団員。ハンガリー国立歌劇場専属歌手。ここ数年ミラノで研鑽を積んだ成果が稔り、ベル・カント唱法の第一人者として、いま最も活躍中のテノール歌手。先の「オペラ・トーク」やコンサートシリーズ「音楽への扉」で美しい歌声を聴かせ、盛大な拍手を受けて多くのファンを増やした。

バス 稲垣 俊也 いながき・としや

東京芸術大学卒業。文化庁オペラ研修所第7期生修了。卒業後直ちに「第九」(東京交響楽団)のソリストとして楽壇にデビュー。1990年文化庁2年派遣芸術家在外研修員としてイタリア留学。91年カシナ国際声楽コンクール入賞。92年パルマ・ヴェルディコンクール優勝。シエナ音楽祭で欧州デビューを飾る。日本では藤原歌劇団「ラ・ボエーム」コッリーネ、「ルチア」ライモンドをはじめ、二期会「トロヴァトーレ」フェランド、「カルメン」エスカミリオ、日生劇場「魔弾の射手」クーノ、「愛の妙薬」

ドゥルカマラ、詠響「アイーダ」エジプト王等で活躍。最近は二期会オペラ21シリーズ「ドン・ジョヴァンニ」の主演でも絶賛され、前途を嘱望される逸材として注目されている。第3回グローバル東敦子賞受賞。第22回ジローオペラ新人賞受賞。伊藤亘行氏、アルド・プロッチィ氏に師事。97年新国立劇場オープニングで「建(タケル)」の主役を飾り、大変な注目を集めた。NHKニューイヤー・オペラコンサート、FMリサイタル、NHK「堂々日本史」のテーマ曲を歌うなど放送分野においても活躍中。二期会会員。

『春日井市民第九演奏会の矜持は十指に余る』

第1に市民参加型の「第九」であることだ。合唱もオーケストラもアマチュアの演奏団体である。第2に市民の参加度が高いことだ。200人の合唱団も、80人のオーケストラも、1000人の聴衆もほとんどが春日井市民であり、その数は毎年ふえつづけて衰えを知らぬ。第3に演奏そのものが毎年向上をつづけ、常に新たな音楽的感動を生んでいること。第4に名誉会長の鞆飼一郎市長を中心として、行政と大学と商工会議所と一般市民と専門家が一体となった「官学財民専の市民の文化活動のペンタゴン(五角形)」が見事に機能していること。第5に合唱の指導に吉川朗氏を迎え、オーケストラの指導に加藤亮二氏を迎え、それぞれに優れたベテランのトレーナーのご協力を得て毎年毎年新鮮で充実した練習に励んでいること。第6に毎年新しい企画で春日井市民に新たな刺激を与えつづけていること。第7に積極的に指揮者やソリストを海外から迎え、「春日井文化の世界に開かれた窓」となっていること。今年は、若きカヴァッツァ氏の洗練された指揮が魅力だ。第8に毎回春日井小牧コミュニティテレビの収録があり、新年に放映されて春日井文化の年頭を飾ることである。第9に演奏会も今年で第7回。永い栄光の歴史をもつ。第10にアンコールに、会場の聴衆と出演者が一体となって「第九」を日本語で歌うこと。歌詞はなかにし礼の作詩になるものだ。第11にこれら十のことがすべて毎年12月の第九演奏会に一言に実現することである。さらに今年の「99春日井市民第九演奏会」もまた、あなたの発見にかかると、誇るべき矜持が新たに生まれることだろう。春日井第九の魅力は終わりを知らぬ。(音楽監督・都築正道)

* 都合により出演者の変更がある場合があります。